

令和7年度 延岡市立土々呂中学校 学校評価書

青の部分は5%以上上がった項目(昨年度との比較)、赤の部分は、5%以上下がった項目(昨年度との比較)です。

評価【 ◎～大変良い ○～良い △～あまり良くない ×～良くない 】

※上段が今年度評価、下段は昨年度評価

	質 問 項 目	教職員			生 徒			保護者			評議委 員評価
		良好	要善	分析	良好	要善	分析	良好	要善	分析	
学習面	生徒は、毎日の学校生活を楽しく過ごしていると思う。	100%	0%	◎	93%	7%	◎	81%	19%	○	◎
		93%	7%	◎	83%	17%	○	81%	19%	○	
	学校は生徒の学力向上のために「わかる授業」に力を入れていると思う。	100%	0%	◎	91%	9%	◎	72%	28%	○	◎
		100%	0%	◎	91%	9%	◎	72%	28%	○	
	生徒は、「宅習ノート」等、家庭学習にしっかり取り組んでいると思う。	75%	25%	○	80%	20%	○	65%	35%	△	○
		69%	31%	△	72%	28%	○	64%	36%	△	
生活面	生徒は、いじめや差別を許さない言動ができていると思う。	69%	31%	△	95%	5%	◎	91%	9%	◎	○
		79%	21%	○	93%	7%	◎	91%	9%	◎	
	生徒は、学校内外であいさつを積極的に行っていると思う。	68%	32%	△	88%	12%	○	77%	23%	○	○
		73%	27%	○	91%	9%	◎	82%	18%	○	
	学校は、礼儀やきまりについて、しっかり指導していると思う。	100%	0%	◎	98%	2%	◎	85%	15%	○	◎
		100%	0%	◎	91%	9%	◎	79%	21%	○	
保健安全面	生徒は、登下校時や休日、交通ルールをしっかり守っていると思う。	85%	15%	○	97%	3%	◎	92%	8%	◎	○
		73%	27%	○	98%	2%	◎	92%	8%	◎	
	生徒は、日常生活の中で情報機器を節度を守って使用していると思う。	40%	60%	×	92%	8%	◎	60%	40%	△	△
		29%	71%	×	73%	27%	○	60%	40%	△	
	学校は、安全・安心な学校環境づくりに努力していると思う。	96%	4%	◎	95%	5%	◎	82%	18%	○	◎
		100%	0%	◎	90%	10%	◎	80%	20%	○	

(学校運営協議会委員との意見交換)

- 各学年で課題・宅習の量を調整しながら、家庭学習の充実を進めてきているのは、個人によって学習習慣や定着度が異なるので良い。また、学力クラスマッチの取り組みは、生徒が主体的に学習しようとする意識を高めるのでとても良い。
- 学力向上については、重要な課題でもあるので、PTA 予算なども活用して、様々な取り組みを行って良い。
- あいさつに関しては、大人もあいさつしない人が多い。大人があいさつすれば返してくれる生徒がほとんどなので、まずは大人からあいさつをすべき。あいさつは、地域コミュニティの活性化につながるので、小学校・中学校・地域が連携しながらあいさつ運動などを実施すると良い。
- 交通ルールの遵守については、4月から道路交通法改正により、スマホのながら運転など自転車の交通違反に青色切符が導入される。生徒の意識を高めるためにも、学校で命を守る大切さと交通ルールについて指導をしてほしい。また、学校の指導だけでなく、保護者・地域との連携も不可欠である。
- スマホやタブレットなど情報機器の使用については、学校の指導だけでは限界がある。生徒・保護者の意識を高めていかなければならない。そのためにも家庭教育学級などの PTA を主体とした活動を利用すると良い。

<学校評価アンケート結果より>

1 学習面に関して

- 「毎日の学校生活を楽しく過ごしているか。」の項目については、教職員・生徒・保護者とも80%以上の数値を示しており、特に生徒の評価が昨年度よりも10%高くなった。これは、毎日の学校生活が充実し、生徒会を中心とした各種行事への取組が非常に活発で、達成感を味わうことができたからではないかと考える。しかし、中には規範意識の低い生徒もおり、少数生徒による粗暴な言動や場を乱す言動が見られた。これは継続的な学校の課題として、対応を考えたい。
- わかる授業の項目においては、昨年度の評価と変わらなかった。生徒と保護者の評価に差異が見られるのは、学力に対する保護者の期待の高さではないかと考える。教職員は「授業で勝負」をスローガンにし、生徒の実態に合わせて、ICT活用や協調学習など積極的に取り入れ、指導方法の工夫改善に努めている。今後も各種テストの結果をもとに、そのフォロー（対策）を行っていききたい。
- 家庭学習については、教職員・生徒の数値が昨年度よりも6%~8%向上した。これは、各学年で課題や学習ノートの内容や量を協議・調整しながら指導してきた成果と考える。また、学習部の取組である学力クラスマッチなど、学力向上のためには「日々の家庭学習の積み重ねが大切である。」ことを意識できる生徒が増えてきたことも考えられる。これからも、主体的に学習に取り組む生徒の育成のため、継続的かつ効果的な指導方法を模索していききたい。
- 家庭学習について、保護者の数値に変化が見られなかった。家庭学習は、家庭状況や生徒の意欲によって、その充実度が変わるので、学校側だけで対策をすることは難しいと感じる。ただ、早めに将来の夢や目標を持たせることで家庭学習の意欲が上がる可能性はあるので、キャリア教育の充実を図り、将来を考える機会を与えられるような取組も継続的に行っていききたい。

2 生活面に関して

- 「礼儀やきまりについてしっかり指導しているか。」の項目について、教職員・生徒・保護者ともに80%を超え、特に、生徒は昨年度より7%向上し、98%が良好という結果であった。また、保護者も6%向上している。これは、教職員が互いに情報を共有しながら、常時指導を徹底してきた成果ではないかと考える。また、学級通信などで生徒の様子を紹介したり、集会活動での生徒会による自主的活動や教職員による礼法指導を継続的に行ったりしたことも要因ではないかと考える。今後も常時指導の徹底と、生徒の主体的な活動をしっかりサポートしていききたい。
- 「学校内外であいさつを積極的に行っているか」の項目については、教職員・生徒・保護者ともに要改善が増えている。生徒会や学年リーダーが牽引してのあいさつ運動や各部活動での指導を行っているが、時と場に応じたあいさつが「まだまだ不十分である」と考えている教職員や保護者も多いと思われる。あいさつは良好な人間関係を築くための手段であることを生徒に気づかせ、主体的に自然とあいさつができるような手立てを、家庭と連携しながら模索していききたい。
- 「いじめや差別を許さない言動ができていないか」の項目については、生徒・保護者とも90%以上の非常に高い数値を示したのに対し、教職員では60%台とかなりの差が見られた。これは、校内において相手を傷つける言動が見られたり、SNS等の媒体を通じたいじめや人間関係トラブルの事例も発生したりしていることが要因だと考えられる。特に、SNSを介したトラブルはなかなか学校でも対処しきれないところもあるため、家庭での指導の徹底を促しながら、学校においても、いじめや差別を許さない心の教育を充実させていききたい。

3 保健安全面に関して

- 登下校時の交通マナーについては、生徒・保護者とも90%以上が交通ルールを守っているとの結果が出ており、教職員も12%向上した。交通マナーに対する意識が高くなっていることが要因と考えられるが、地域から登下校中の交通マナーを守れていないこととの指摘が数件あった。その度に、全校集会や各学年・学級で指導してきた。今後も保護者・地域の協力を得ながら、交通マナーの向上に努めるとともに、交通安全教室等を通じて交通マナーについての知識理解を深める指導も行っていききたい。
- 安全・安心な学校環境づくりについては、教職員・生徒・保護者とも高評価であり、大半の生徒が落ち着いた学校生活を送れていると考える。これからも避難訓練や不審者対応訓練などを繰り返し実施し、安全・安心な学校環境づくりを継続していききたい。
- 情報機器の使用については、昨年同様、教職員や保護者の評価は低く、生徒のトラブルの大半はこの情報機器の使用が絡んでいる状況である。個人が所有する情報機器については、家庭での指導や見守りが果たす役割が大きく、その責任は保護者が負うものであるが、家庭を巻き込んだ啓発や指導が今後も必要と考える。また、学校においてICT教育が進み、授業において情報機器を使用する頻度が増加している一方、教師の目の届かない場面・時間での使用などに関して心配な面もあるので、使用ルールの徹底を図っていく必要がある。